

123456

●F●O●R●P●R●O●F●E●S●S●I●O●N●A●L

ドリームバイザー特選メールマガジン(2)
木村喜由のマーケット通信 2006年4月18日

●D●R●E●A●M●V●I●S●O●R●.●C●O●M●●

フリーハンドでの株式市場展望

秋以降の製品市況の崩れを警戒

何年ぶりかで勤め人時代の友人から電話があり、ざっくばらんに株式市場の見方を教えてくれと言うので話をした。以下は思いつくままフリーハンドで語ったそのQ&Aの概略である。

Q:当面の相場には強気か弱気か。

A:正直なところ秋以降の相場は自分の予想よりも強く、流れをうまく捉えていないので自信はない。ただ当面深押しはないとしても警戒的に見ている。しよせん今の相場は外国人主導で、お金をつぎ込んで来る外国人の考え次第で上がったり下がったりする。私自身は自分が集めた情報や経験から判断して最終的に相場はこう動くだろうという判断にこだわるタイプなので、今買っている連中の考え方を当て推量するのは得意ではないが、外国人全体で言えばベンチマーク(基準)並みに日本株の比重が高まり、割安感もなくなったのだから買いは減ってくるだろう。米国が下げればそれに連動して下げる公算ありと見る。

Q:自分の知っているヘッジファンド系の連中は大方弱気だが。

A:我々が外資系証券時代に付き合ってきたような連中は多分そうだろう。だが、最近の買い手は違うようだ。個別企業を研究、選別するより資金をなんぼつぎ込めるかで決めている印象で、銀行株など時価総額の大きな銘柄ばかり買っている。あるいは先物を買うとか。金利が上がっているのに史上最高を更新した金や原油など、最近の商品市況を見ていると、投資資金が投機の間を求めているのは明らかだ。この手の資金が余勢を駆って日本株に入ってくないとも限らない。その場合は大型株やインデックス主導で短期急騰するだろう。しかしその後は高値でドーッと売り物が出てきて急反落しそうな気がする。どのみち景気が長続きすると見ている奴は多くないからね。

Q:みんな業績相場だと言っているが、私は下手をすると今年度は(企業収益が)減益になるのではと思っているが。

A:私も同感だ。金利が上がり始めたのは最近で、ようやく金融相場から業績相場にシフトということだろうが、実はかなり前から業績相場だったと思っている。金融緩和が異常に長かったために判りづらくなっているが、日本はともかく世界の景気はすでにピークが接近しつつあると思う。米国の住宅景気が冷え始めたので秋以降の米国景気は減速するだろう。米国が減速すれば世界的な設備投資ブームを冷やすことになる。ハイテクでも自動車でも大型新商品が登場したわけでもなく、需要が見通しに届かないと一気に製品が値崩れしそうだ。設備投資ブームということでは6年前と似ており、下期の景気(GDP)はともかく企業収益は意外に悪いんじゃないか。

中小型株にはまだ上値余地も、深追いに注意

Q:自分はまだ中小型株でいけるのではないかと思っているがどうか。

A:大型と中小型のPERを比べると中小型に割安なものが多く、決算発表にかけては例年中小型株がアウトパフォームすることが多いので、私も基本的にはそれでいいと思う。ただ、去年、一昨年と5月17日が安値となったみたいに全体相場が下げる局面では巻き添えを食らう恐れがあるのは要注

意だ、その際に安値を拾えれば最高だけだね。もう一つ、中小型株は景気のピーク付近にブーム的に買われる習性があるが、この時期は一過性のものなので深追いしないよう注意が必要だろうね。

一般論で言えば中小型株は10月から1月の間に安値を付け、いい銘柄ほど先に上昇トレンドに入る。1月まで下がるようなのは機関投資家の対象外の流動性が薄い銘柄に多いね。また、2000年春にITバブルが崩壊して以来、中小型株やバリュー株が優位の流れが続いており、以前ほど高いパフォーマンスが上げられる銘柄が残っていないと思う。

Q: 平均株価の上値はどれくらいまで見ているの。

A: 今年は日経225で1万8千円台乗せがやっただろう。5-6年後なら2万4、5千円はあると思う。平均で毎年千円強上がるなら悪くはない。しかし、世間で言われるほどの大規模な資金シフトは起きないんじゃないか。これからはエネルギーとか高齢化とか国際収支とかいろいろと不透明要因がクローズアップされる。言ってみれば障害物ごとに黒いカーテンを引いて隠してある障害物競走みたいなもので、よほど勇気があるか資金に余裕がある人でないとリスクを取る気になれないのでは。これは毎度のことで、その分、株式投資のリターンが高くなるから株で頑張ると心を決めた投資家にとっては悪い話ではない。あまり参加者が多くなりすぎてバブってしまうよりはましだ。

Q: どういうスタイルでやっているのか。

A: 私自身は、買い銘柄の合計金額100に対して空売り金額50を基本とするロング・ショート戦略だ。買いの中心は中小型の低PER銘柄。空売りは人気株や無配株など。相場下落時に、流動性の低い買い銘柄の値下がりカバーする必要があるからだ。先行きに強気なら空売り比率を減らし、弱気なら買い銘柄を削って空売りに切り替える。今は空売り比率36%でやや強気。昨年の衆議院解散時には11%まで下がった。現状では買いポジションを10%削って、その分を空売りに切り替えれば空売り比率が50%になる計算だ。

(了)

最終的な投資判断はご自身でお願いします。本文、データなど本メール マガジンの内容すべてに関する正確性、信頼

性、安全性、迅速性などに 直接または間接的に起因する損害や費用などの一切について、その程度を 問わず、ドリームバイザー・ドット・コム(株)および マネックス証券

(株)、NPO日本個人投資家協会、その製作者、 データ提供者、 その他関係者は責任を負わず、損害賠償に応じません。 また、メールマガジンの本文、データなどは著作権法などの法律、規制 により知的所有権が保護されており、個人の方の本来目的以外での使 用や他人への譲渡、販売コピーは認められていません(法律による例外 規定は除く)。以上の点をご了承の上、メールマガジンをご利用ください。